

支援の地に生きるFIDRの「DNA」



今年度もFIDRは、農村で、病院で、学校で、被災地で、現地の人々と力をあわせてプロジェクトに取り組みます。その効果が活動期間を終えても保たれ、地元の力による発展につながることを大切にしています。

©BlessU

東日本大震災から、14年の歳月が経過しました。

FIDRは岩手県沿岸部を中心に、震災直後から2018年度までの8年間にわたり緊急・復興支援に携わりました。その活動拠点とした山田町の事務所で地元のスタッフとして活躍した中居知子さんから、今年の1月に思いがけない報告がありました。

支援者の皆様にやっと恩返しができる

「当時は大変にお世話になりました。FIDRの現場スタッフとして賛助会員や寄付者の皆様に支えられてばかりでしたが、今、やっと恩返しができる気がします」という中居さんは、FIDR在籍時、コミュニティの再起を後押しする活動で八面六臂の働きをしてくれました。

FIDRの復興支援プロジェクトが終わりに近づいた2017年、山田町の事務所は閉所となりました。中居さんは、大槌町で非営利団体に活躍の場を移した後、2023年3月には自ら一般社団法人BlessU(ブレスユー)を設立し、代表理事を務めています。

今の山田町は

地震と津波、火災により町の風景が一変した山田町は、ようやく公共のインフラに関しては回復しました。しかし、震災以前より課題であった過疎化は深刻さを増しています。かつての住宅街も今は空き地が目立っています。



空き地の向こうに見えるのが震災後に建てられた災害公営住宅



子どもの相手をする高齢者



完成間近のリタニティハウス

「小学校、中学校は統合され、かつて地区別にあった小学校は2校、中学校はたった1校に。子どもの姿もめっきり減ってしまいました。」

高齢者の暮らしにも影響が及んでいます。かつての仮設住宅での生活ではFIDRなどの支援でご近所どうしの交流の場が多くありました。やがて再建した自宅や災害公営住宅に移り始めるとそうした機会も減り、ご近所の関係は希薄になってしまいました。一人暮らしの高齢者は特に孤立の危険が高まっています。

自身の経験から

高齢者だけではありません。シングルマザーもまた孤立しがちな存在です。山田町でパート、アルバイトで働く母親の年間平均収入は120万円。全国平均150万円と比べて明らかに低い水準です。

ご自身も2人の子どもを育てるシングルマザーの中居さん。「貧困から脱するのに10年かかりました。当初は死に物狂いで生き、一人で子育てしていたつもりでした。でも、親戚やご近所さんにいっぱい支えてもらい、一緒に子どもを育ててくれたんだと気づきました。」

「最近、新たな問題が目立ってきました。シングルマザーは自分の親が公営住宅に入居すると、同居できず離れて暮らすことになります。すると深刻な貧困に加え、親に悩みを相談したりサポートをしてもらったりすること



FIDR スタッフとして住民の交流イベントをサポートする中居さん（2015年11月）



FIDR の活動を通じて町民との絆が深まった。左が中居さん（2016年2月）



パソコン研修後、仕事を受注しはじめたシングルマザーと中居さん（奥）

も難しくなり、孤立に陥いるんです。」

画期的な施設「リタニティハウス」

こうした高齢者とシングルマザーが抱える問題を解消したいと決意した中居さん。本当の家族と同じように何でも相談でき、一緒に食事をし、役割を分担する場があれば、孤独感は癒え、安らぎを感じることができるはずです。

「従来の集会所や公民館は、グループ単位で事前申請しないと使えません。一人暮らしの高齢者は、何のグループにも属していないことが多く、気軽に集う場がありません。だから、誰もが、好きな時に来ることができる場所が必要だったのです。」

中居さんのBlessUは、企業からの寄付を得て今年、「リタニティハウス」という活動拠点を創設しました。

お母さんたちは、リタニティハウスの運営を担うとともに、一人暮らしの高齢者を見守り、パソコン技能の研修なども受講できます。高齢者は子どもの世話をしてくれます。子どもたちは安心して遊び、温かいご飯を食べることができます。

この活動には、FIDRのDNAが生きている

「リタニティハウス」の名称は、「利他」と「エタニティ(永遠)」を組み合わせた造語です。かつてFIDRで働いた経験が、中居さんに大きな学びになったといいます。

「困っている人に単にものをあげるのではなく、自らの力をいかに発揮できるようにするかが肝心なのです。支援する側はあくまでも『縁の下力持ち』に徹し、当事者に『役割を任せる』のです。そして一過性の支援で終わってしまわず、その効果がいつまでも持続しなければなりません。こうした姿勢をFIDRを通じて身に付けました。いわばFIDRのDNAとして今の私の中に生きています。」



FIDR スタッフと現地協力団体のメンバー（ネパール）



楽しみながら栄養の知識をつける高校生を見守るFIDR スタッフ（カンボジア）



国際会議の場で伝統文化を紹介するカトゥー族とFIDR スタッフ（ベトナム）

中居さんは自身の経験を通じて、シングルマザーや高齢者は何ら弱い存在ではなく、自らの未来を変える力を持ち、地域社会を盛り上げることができると確信しています。それを地元企業や有志が支えることで『町民みな家族』となれば、全国の過疎問題に対して地域再生の一つのモデルとなるでしょう。

「震災後、FIDRの活動でたくさんの町民と接する中で、生きることを諦めちゃいけないと思うようになりました。私自身が仕事を楽しく感じると町の皆さんも楽しんでくれました。町民バスや集会所などの有形のFIDRの支援は、今も活用されています。一方、住民自身によるイベントや寄り合いといった無形の活動については、うまく継続できなかったという葛藤が私の中にありました。FIDRのDNAを失いたくないという思いが、今こうして地域再生に取り組む動機になっているのです。」

2025年度のFIDR

中居さんにしっかりと生きているFIDRのDNA。それは35年前にFIDRが生まれてから、様々な国と地域で支援活動の経験を重ねる中で、当事者主体と持続的発展を最も大切にするという姿勢を培い、FIDRのスタッフ一人ひとりに受け継がれてきたものです。

このDNAはFIDRスタッフだけでなくプロジェクトに関わった現地の人々にも伝わり、他者を支え、共に繁栄する未来を目指す動きが広がっています。FIDRは2025年度も法人、個人の賛助会員をはじめとする皆様とともに、各地にFIDRのDNAが宿る働きに努めてまいります。

中居さんの取り組みをもっと知りたい方はこちらから▼
一般社団法人BlessU(ブレスユー)
<https://mothers-blessu.org/>

応援はこちらから



FIDR 2025年度のプロジェクト

カンボジア

カンボジア栄養教育普及〔第2フェーズ：2020～2025年度(予定)〕



モデル校から持続可能な栄養教育の輪を拡げる

これまでの活動の成果と課題を関係者と共に振り返るワークショップを開催し、今後、モデル校が主体的に取り組みを継続できる環境を整えます。教育省学校保健局の職員が現場の教員に的確な指導を行えるよう、フォローアップ研修を実施します。さらに、コンボンチャム州のモデル校4校で培われた保健の授業、学校菜園、衛生改善の取り組みなどの経験を他校に広める活動を推進するとともに、過年度の「食育デー」に代表される栄養教育イベントの継続開催を学校や地域行政官と連携しながら支援します。加えて、カンボジア版食生活指針(FBDGs)の普及を軸に、栄養教育の重要性への理解を深める取り組みを継続します。また、これまでの活動を基に、新規事業の可能性を探るための調査も実施していきます。(19,284千円)

カンボジア小児外科支援

〔第6フェーズ：2023～2027年度(予定)〕

小児外科診療体制の州内外への拡充

クラチェ州病院を中心とする小児外科診療体制の州内での拡充を進めるため、州病院および郡病院の医師や看護師、保健センター職員の能力向上を引き続き支援します。また、啓発活動や情報発信を通じて、住民が適切なタイミングで必要な医療を受けられるよう促します。さらに、州外への拡大として、北東部近隣州の医療機関と協力し、州病院が周辺地域の外科患者を受け入れられる広域医療連携の基盤を整備します。(37,963千円)

※事業活動の一部を「カンボジア北東部におけるコミュニティに根差した小児科診療体制強事業」として外務省日本NGO連携無償資金協力により実施

ネパール

ネパール地域総合開発〔2021～2026年度(予定)〕

食料自給率と収入の向上、そして子どもたちの学びやすい環境作りを



水不足に陥りがちな乾季でも安定して農業用水を確保できるよう、住民と協力して進めてきた「ため池づくり」を、今年度はさらに100か所増設します。あわせて、地域住民を対象に農業技術の研修やワークショップを開催し、農業生産力と生産性の向上を支援します。また、山村の学校に通う子どもたちの学習環境を改善するため、地元住民と協働し、学校施設を修繕します。今年度は対象地域の8校で、教室用の机・椅子の配備をはじめ、学校の外周フェンスや校門の設置、校舎の屋根や教室の床の修繕を支援し、教材・教具の整備にも取り組みます。(31,088千円)

※「ソルクンプ郡並びにオカルドゥンガ郡における住民の協働活動を通じた地域開発事業」として外務省日本NGO連携無償資金協力により実施

FIDRのプロジェクトは「持続可能な開発目標(SDGs)」のうち11のゴールに貢献しており、1,5,10,17のゴールはすべてのプロジェクトで共通して取り組んでいます。



ベトナム

ベトナム中部発展型農村総合開発〔2019～2026年度(予定)〕

持続的な地域発展の仕組みと体制作り

地元の少数民族が主体となって見出した地域資源を活用し、持続的かつ発展的な農村総合開発を促進する仕組みと体制の構築を目指します。少数民族の人々が伝統文化と自然環境を守りながら観光振興を図るコミュニティー・ベースド・ツーリズム(CBT)の展開を強化し、地元資源を活用した特産品の開発から製造・販売にいたる地場産業の育成の活動との統合を目指します。あわせて、行政機関や旅行会社をはじめとする関係団体による後方支援の強化、地域ブランドの確立、広域産業ネットワークの構築と活用を進めてまいります。(47,738千円)

※「クアンナム省山岳少数民族地域における地域資源を活用した持続的な農村産業促進のための基盤構築事業」としてJICA草の根技術協力により実施



**ソンラ省持続的コーヒー生産のための
コミュニティ開発**〔2021～2026年度(予定)〕

より多くのコーヒー農家に持続可能な生産と安定した生活を

持続的なコーヒーの生産を通じて、安定した生活の実現とコミュニティ支援体制の構築を目指します。今年度は、これまでの成果を基に活動対象地を広げ、より多くの農家が恩恵を受けられるよう支援を拡大していきます。地域のコーヒー生産農家のリーダーを育成・強化し、一般農家への知識や技術の普及を促進するとともに、コーヒー生産者の生活改善のために、衛生環境の改善(5S)の推進と実践に引き続き取り組みます。日本国内では企業との協働により、ソンラ産コーヒーを広く紹介し、生産と消費の持続的な循環が確実に進むよう目指してまいります。(3,750千円)

※イオン(株)委託事業として実施

**クアンナム省タイヤン郡における
地域マネージメント強化**〔2025～2026年度(予定)〕

子どもたちの衛生環境と栄養状態の改善を支援

事業地はベトナム中部のクアンナム省内の山間部の中で特に遠方にあり、住民の貧困率が高い地域です。FIDRは現地行政から、新たに発足した村の安定的な発展のための支援要請を受けました。若い世代を中心とするリーダーの育成、マザーズ・スペースの設置や栄養指導など、住民の生活を向上させるための研修とその実践普及を行ってまいります。(16,500千円)

緊急援助

近年、国内外で豪雨、巨大台風、干ばつが頻発し、地震・津波による甚大な被害も発生しています。行政や他の民間支援から抜け落ちている地域や領域を捉え、被害を受けられた方々の必要に応える支援を適時に行います。(5,193千円)

令和6年能登半島地震緊急援助

過去の国内での災害支援活動の経験と多くの法人賛助会員との協力体制を活かし、応急期から復興期にかけて現地が必要とする支援を、行政との連携により、的確に実施します。今年度は、珠洲市を中心に、主に公立学校の課外活動再開に向けた支援、産業復興への支援の領域で活動を見込んでいます。(10,000千円)

**ダナン市における女性・
子ども支援**〔2022～2026年度〕

格差に苦しむ人々に職業訓練を通じた新たな選択肢を

ダナン市の貧富の格差拡大は進行中で、経済発展の恩恵や福祉サービスが届かない人々が依然として存在します。引き続き、ダナン市慈善・チャイルドライツ協会と協働し、貧困世帯の女性及び若年者等を対象とする食品加工、包装、縫製などの職業訓練を実施します。また活動の持続性を担保するために、運営のための人材育成にも取り組みます。(4,500千円)

ベトナム国際医療技術協力

ベトナムの医療技術及び医療サービス向上に寄与することを目的に、同国の保健省及び医療従事者を対象にセミナーの開催、日本国内における研修および専門家の派遣並びに国際医療協力事業案件発掘のための調査活動を実施します。(1,500千円)

共催団体：(公財)国際医療技術財団

日本

広報啓発

賛助会員の皆様及び広く日本の企業・市民に向けて、FIDRの事業活動の意義やその成果について理解を深めていただけるよう、広報活動を行います。これにあたり、ボランティアをはじめFIDRにご協力くださる方々の参画を推進します。10月に事業報告会を実施し、後日オンラインでも公開することで、広く企業・市民の方々にFIDRの働きを広報します。またニュースレターをウェブサイト上で一部公開し、より厚みのある活動情報発信を行います。(16,212千円)